

## ARTs of JOMON in AOMORIによせて

現代社会は、便利であることが何よりも優先され、それがゆえに効率的に物事が考えられます。地球規模での急激な人口の増加を考えれば、それが人間の知恵であることは間違いありません。しかしそれが加速することによって、環境も急激に変化し、エネルギーや食料など様々な問題が浮上し、地球上で人がこれらとどれだけ生き延びていけるのだろうかという、人類はもっと根本的な問題を抱えることになりました。どうせん心ある人は、このまま先へ進んで本当にいいのだろうかという疑問を持つことになります。このような時代に10000年以上続いた縄文という時代に興味を抱く人が出てくるのは、ある意味必然と言えるでしょう。なぜこんなにも永くこの時代は続いたのか。そこに、これから人類が生き延びるためのヒントがあるのではないかと。これがARTs of JOMON in AOMORIに参加するアーティストが共有している感覚ではないかと思えます。そして私自身も、計り知れない力を縄文に感じています。

グラフィックデザイナー 佐藤 卓

## ARTIST PROFILE



**大藪龍二郎**  
RYUJIRO OYABU

小学校の授業で縄文土器を知り、陶土に魅了され陶芸家を志す。1993年に、野生動物写真家、久保敬親氏のアシスタントとしてアラスカを2ヶ月間にわたり取材旅行。写真家星野道夫氏とも出会い、野生動物の持つ力と地球の織り成す自然に感銘を受ける。土と炎を使い「自然界の不思議な力」をモチーフに「真の美とは何か?」を模索しながら制作している。



**小林武人**  
TAKETO KOBAYASHI

<http://vimeo.com/user7375530/videos>

CGという最新の道具を使いながら、その作品は縄文精神に基づいて制作される。新しい技術により、縄文人が描き出せなかったであろう文様を乱舞させ、太古と未来を繋ぐ大きな円環を創造する。



**澁谷忠臣**  
TADAOMI SHIBUYA

<http://www.tadaomishibuya.blogspot.jp>

直線的に再構築する世界観を持つアーティスト/イラストレーター。その独自のスタイルで世界中の企業とのコラボレーション、クライアントワークを行っている。また、hggrp Gallery Tokyoやパリでの個展をはじめ、ロンドン、NY、LAなどで数々の展示に参加。表現の場は国内外、ジャンルを問わず多岐に渡る。



**堀江武史**  
TAKESHI HORIE

修復家。考古学の文献を参考にした作品づくりも行う。「縄文の魅力の世界につなぐたい〜私の考える縄文遺物と現代美術の協同〜」等で自作品を用いて縄文遺物を紹介。2002年に企画した三内丸山遺跡での一般向け「土偶のレプリカづくり」は11年間続いている。「縄文文化の伝え方」が終生のテーマ。



**菊地嘉明**  
YOSHIAKI KIKUCHI

1940年つがる市生まれ。洋画家・和太鼓奏者。遮光器土偶と縄文ロマンに魅せられ、89年、創作太鼓「荒吐(アラバキ)会」を設立。各地で演奏活動を続け、内外から高い評価を受ける。「平成6年度木造町文化奨励賞」受賞。50歳代、独学で油彩に挑み、個展・グループ展多数。独特の力強い表現でJOMONを描き続けている。

## WORK SHOP

詳しくは縄文ファンを検索! <http://www.aomori-jomon.jp>

八戸ワークショップ 2.16(日)・2.17(月) 場所: チーナはちのへ

### 1. 蜜蝋キャンドル体験

天然蜜蝋を使ったキャンドル作りです。板状にした蜜蝋を、電気ストーブ、ドライヤーで温め、粘土くらいの柔らかさにします。粘土細工を作るように形を整えて、芯を通して完成です。



【講師】  
oh!hashi326  
【参加費】  
500円(材料費)  
【人数】  
先着20名(各日)

### 2. 黒曜石のアクセサリ作り

縄文時代に使われていた黒曜石を使って、紐を組み上げ、オリジナルのアクセサリを作ります。



【講師】  
草刈朋子  
(NPO法人Jomonism)  
【参加費】  
500円(材料費)  
【人数】  
先着20名(各日)

青森ワークショップ 2.22(土)・2.23(日) 場所: 青森県立美術館コミュニティギャラリー

### 1. ガラスのモビールを作ろう!

ガラスパーツを用いてバランスをとりながら組み立てモビール(動く彫刻)を制作します。



【講師】  
小林宏  
【参加費】  
無料  
【人数】  
先着20名(各日)

### 2. 木のストラップ作り

いろいろな木の種類から好きなものを選び、紙やすりで仕上げ、胡桃で塗装してストラップを作ります。好みにスタンプを押すこともできます。



【講師】  
shimotai kagu  
下平 尚史  
【参加費】  
無料  
【人数】  
先着20名(各日)



**猪風来**  
IFURAI

1947年広島県出身。縄文野焼き技法の第一人者。縄文の心を求めて北海道の大自然の中で暮らし縄文の美の根源性に開眼、生命と魂の文様が躍動する野焼き作品を多数創作。近年は穴窯での施釉縄文造形作品や、華麗に舞う渦の彩色縄文文様画など新境地の猪風来縄文スパイラルアートを創作。2005年岡山県新見市に猪風来美術館開館。



**片桐仁**  
JIN KATAGIRI

1973年、埼玉県出身。ラーメンズとしての活動以外に舞台・ドラマ等に出演。NHK教育『シャキーン!』TBSラジオ『エレ片のコント太郎』にレギュラー出演中。また、粘土作品集『ジンドン・ジョーンズ 感涙の秘宝 粘土道2』が講談社より発売中。



**坂巻善徳 A.K.A. SENSE**  
YOSHINORI SAKAMAKI

<http://www.sensepeace.me>

即興的に「カタチ」を増殖させて行く描法で、瞬く間に画面に有機的とも機械的ともいえる造形を出現させる。生命力に溢れた形は一期一会で変化する。



**WE+ 林登志也** TOSHIYA HAYASHI  
**安藤北斗** HOKUTO ANDO

<http://www.weplus.jp>

グラフィック、プロダクト、広告、インタラクティブ、技術開発等、フィールドを限定せずさまざまな活動を展開するクリエイティブスタジオ。プロダクトそのものに時間や場所の意味づけを与えるプロジェクトを得意とする。



**丸岡和吾**  
KAZUMICHI MARUOKA

<http://www.kazumichimaruoka.com>

髑髏や骨に特化した造形作家。その活動範囲は焼物からファッションまで多岐に渡る。焼物の制作年数は長くないものの、その造形力を遺憾なく発揮した茶道具などは既に引く手数多。



**大森準平**  
JUMPEI OMORI

<http://www.megumiogita.com/cn4/pg119.html>

アニミズムを感じさせる抽象的な黒陶の彫刻から記号的に縄文土器を扱ったポップなシリーズまで幅広く展開する。既にNYの美術館に作品が所蔵されるなど海外での評価も高い。



**金理有**  
RIYOO KIM

<http://www.riyookim.com>

焼物を学び始めたから古代の遺物に興味を持ち、未来も古代も想像力の世界であるという着想を得てその双方を感じさせる作風に至る。刺青やクラブミュージックなどの現代文化を「土着」と仮定し、原始文化や宗教との関連性を考察しながら表現へと昇華する。



**篠崎裕美子**  
YUMIKO SHINOZAKI

ビートニク文化の視覚表現に影響を受け、セラミックに原色を使った装飾を施す呪術的な造形が特徴。リズムを刻むような点描と鑄(しのぎ)は縄文の造形に通じるものがある。



**高橋昂也**  
KOYA TAKAHASHI

<http://www.takahashi-koya.com>

1985年愛知県生まれ。映像作家。緻密な描画と独自の技法で映像を制作し、TV、ゲーム、舞台、文化施設等で活動。民俗、宗教、自然科学のもつ神話性、また日本土着の世界認識を基盤とした表現を試み、自主的な制作活動も行う。



**結城幸司**  
KOJI YUKI

版画家、ミュージシャン。アイヌ民族の運動家としても活動。アイヌの音楽と舞踏、手仕事などを伝える「アイヌ・アートプロジェクト」を2000年に設立。全国でライブやワークショップなどの活動を行っている。2008年には世界12カ国22民族による「先住民民族サミット」のアイヌモシリ2008事務局長を務めた。



**ゆきふらし**  
YUKIFURASHI

1967年千葉県生まれ。18歳で愛知県瀬戸市窯業訓練校にて作陶を学び、現在は青森県五所川原市に築窯、作陶の拠点とする。2007年から「カンボジア釉薬陶器復興プロジェクト」に参加。現在も支援活動中。